

2019(平成31)年度 沖縄国際大学入学試験問題（前期）

法律学科・地域環境政策学科・企業システム学科・社会文化学科・人間福祉学科(心理)

【選択科目：地理 B】

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 入学志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 入学志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5 ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答した解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2019(平成31)年度 沖縄国際大学入学試験問題(前期)

法律学科・地域環境政策学科・企業システム学科・社会文化学科・人間福祉学科(心理) 【地理B】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I 世界の地形に関する以下の文章を読み、図1も参考にして問いに答えなさい。

地球表面には、六つの大陸とそれらの周辺の島々からなる陸地、および3つの大洋と多数の付属海からなる海洋がある。陸地と海洋の面積比は約 ① で海洋のほうが広い。全陸地の3分の2は ② に分布し、陸地の分布は偏っている。

海洋で広い面積を占める部分は深さ 4000 ～ 6000 m の平坦な大洋底である。大洋底の中央部には、長く連続する A とよばれる高まりもある。大洋底よりも一段と深い B は列島や大山脈に沿って線状に伸びている。大陸の沿岸部には、緩やかに傾く浅い斜面である C が発達している。

地球表面は、平均の厚さが 100 km ほどのいくつかの硬い岩石の板で覆われていると考えられている。これらの板を D といい、一つ一つの D はその下のマントルがゆっくり対流することにより、様々な方向に移動する。D が移動するという考えは、大地形のでき方を最も合理的に説明できる理論で E と呼ばれる。現在の大陸は、中生代はじめまで ③ 超大陸と呼ばれる一つの大きな大陸であったが、その後、分裂・衝突しながら移動して、現在の大陸に分かれた。なだらかな山地が広がる ④ 造山帯は当時の D の境界、高く険しい山地となる ⑤ 造山帯は現在の D の境界であったと考えられている。

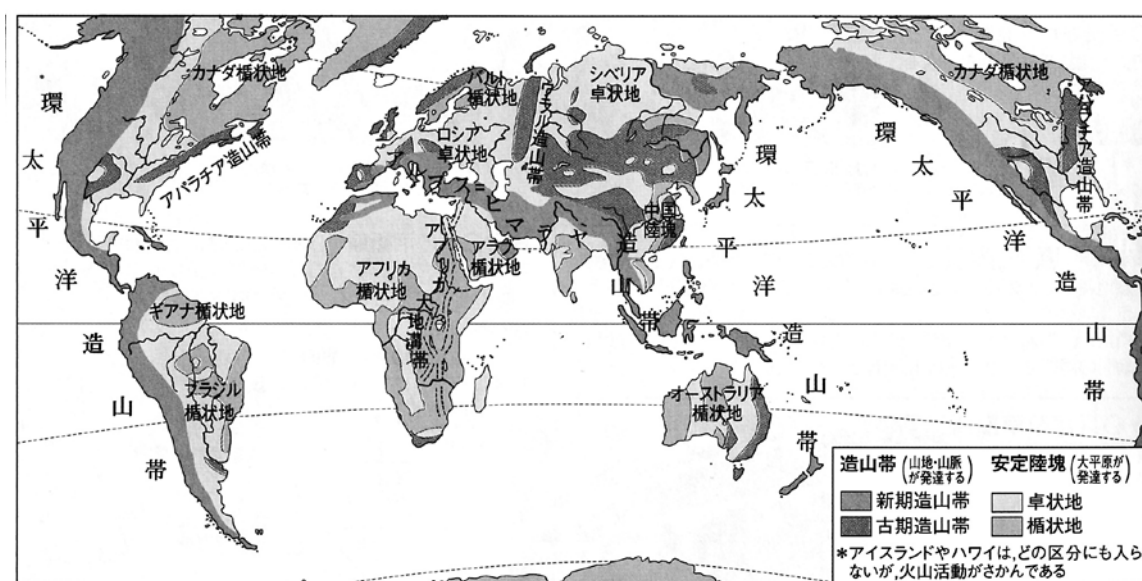


図1 世界の造山帯と安定陸塊 (新詳地理資料 COMPLETE 2017 帝国書院)

問1 下線 a に該当するすべての大陸の名前を記入しなさい。(各1点)

問2 下線 b にあてはまるすべての海洋の名前を記入しなさい。(各1点)

問3 ～ にあてはまる語を、下記の語群から選択して記号で答えなさい。
(各1点)

【語群】

ア. 1 : 9	イ. 2 : 8	ウ. 3 : 7	エ. 4 : 6
オ. 北半球	カ. 南半球	キ. パンゲア	ク. ローラシア
ケ. ゴンドワナ	コ. 古期	サ. 新期	

問4 ～ にあてはまる語句を記入しなさい。(各2点)

問5 下線 c の は平均深度 130m 程度と浅く、産業利用上重要な場所である。どのように利用されているか記述しなさい。(4点)

問6 古期造山帯を代表する山脈を一つ答えよ。(2点)

問7 新期造山帯を代表する山脈を一つ答えよ。(2点)

Ⅱ 次の文を読み以下の問いに答えなさい。

西アジアの産油国は石油資源に恵まれていたが、当初は開発や精製をする技術をもたなかった。そのため ①、②、フランス、オランダなどの国際石油資本（メジャー）^aから限られた利権料をうけたが、利益の大部分は先進国に持ち去られた。

これに対して資源ナショナリズム^bの動きが高まり、外国資本の支配に不満をもつ産油国は1960年に石油輸出国機構 ③ を結成した。その後、石油輸出国機構 ③ は、2度の中東戦争を経て、原油の価格や産油量の決定権を獲得した。1973年と1979年には、産油量と輸出利用の制限によって原油価格が高騰し、石油危機（オイルショック）^cが起こった。2度の石油危機は、産油国に巨額な石油収入をもたらした。

2000年に入り、原油価格の国際的な高騰の一方で資源ナショナリズム^bの動きにより、石油や天然ガスの権益は生産国に移ってしまった。そのため国際石油資本（メジャー）^aはあらたな資源開発の必要に迫られた。そこで開発が進められたのがシェールガスやシェールオイル^dであった。シェールガスやシェールオイルは埋蔵量が多く、技術革新によってシェール層からの採掘が可能になり、このような動きは世界の石油事情に大きな影響を与えるようになり、④ 革命とよばれている。採掘は図2にあるようにヨーロッパや中国でも開発が進められている。一方でシェールガスやシェールオイルの採掘には、化学物質を含んだ多量の水を高圧で岩盤層に注入するため、心配される課題^eもある。

問1 ① ～ ② に入る国名について記入しなさい。（各2点）

問2 ③ に入る略語について記入しなさい。（2点）

問3 下線 a 国際石油資本（メジャー）について説明しなさい。（4点）

問4 下線 b 資源ナショナリズムについて説明しなさい。（4点）

問5 下線 c 石油危機（オイルショック）について説明しなさい。（4点）

問6 下線 d シェールガスやシェールオイルについて説明しなさい。（5点）

問7 ④ に入る適切な語句を記入しなさい。（2点）

問8 下線 e の心配される課題について具体的に説明しなさい。（5点）

問9 図1の油田の分布と図2のシェールガス田の分布を比較して、シェールガス田の分布の特徴について説明しなさい。(4点)

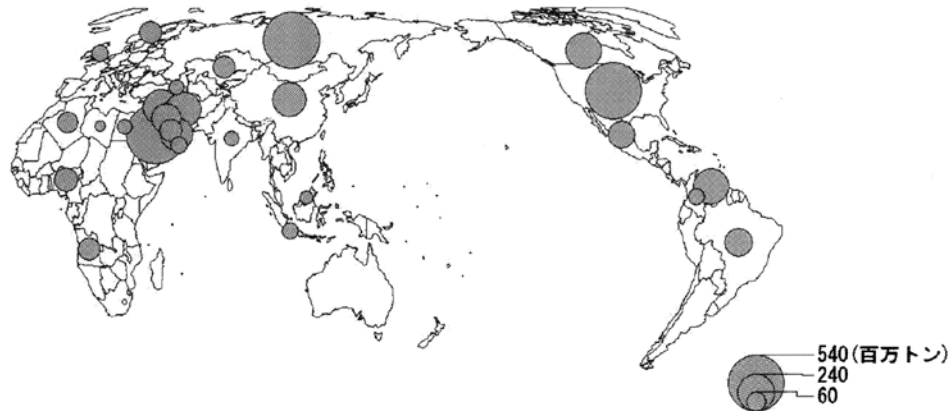


図1 主要産油国の原油の産出量 (2016 年) 資料：BP Web 資料

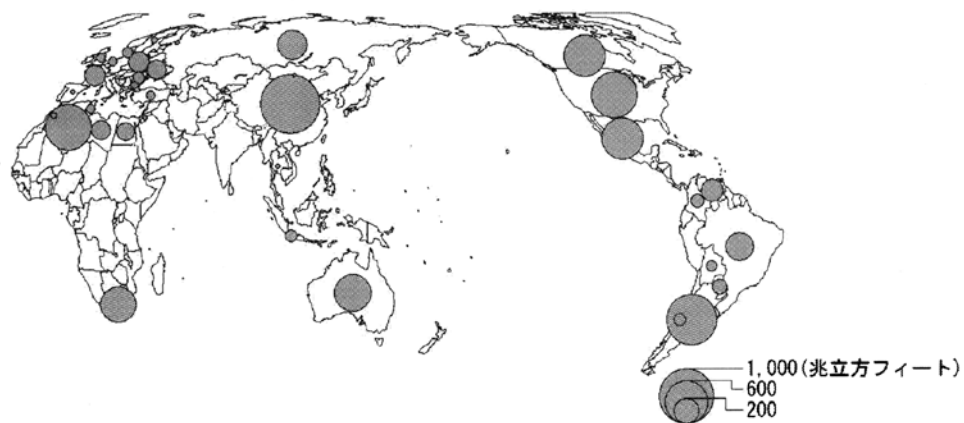
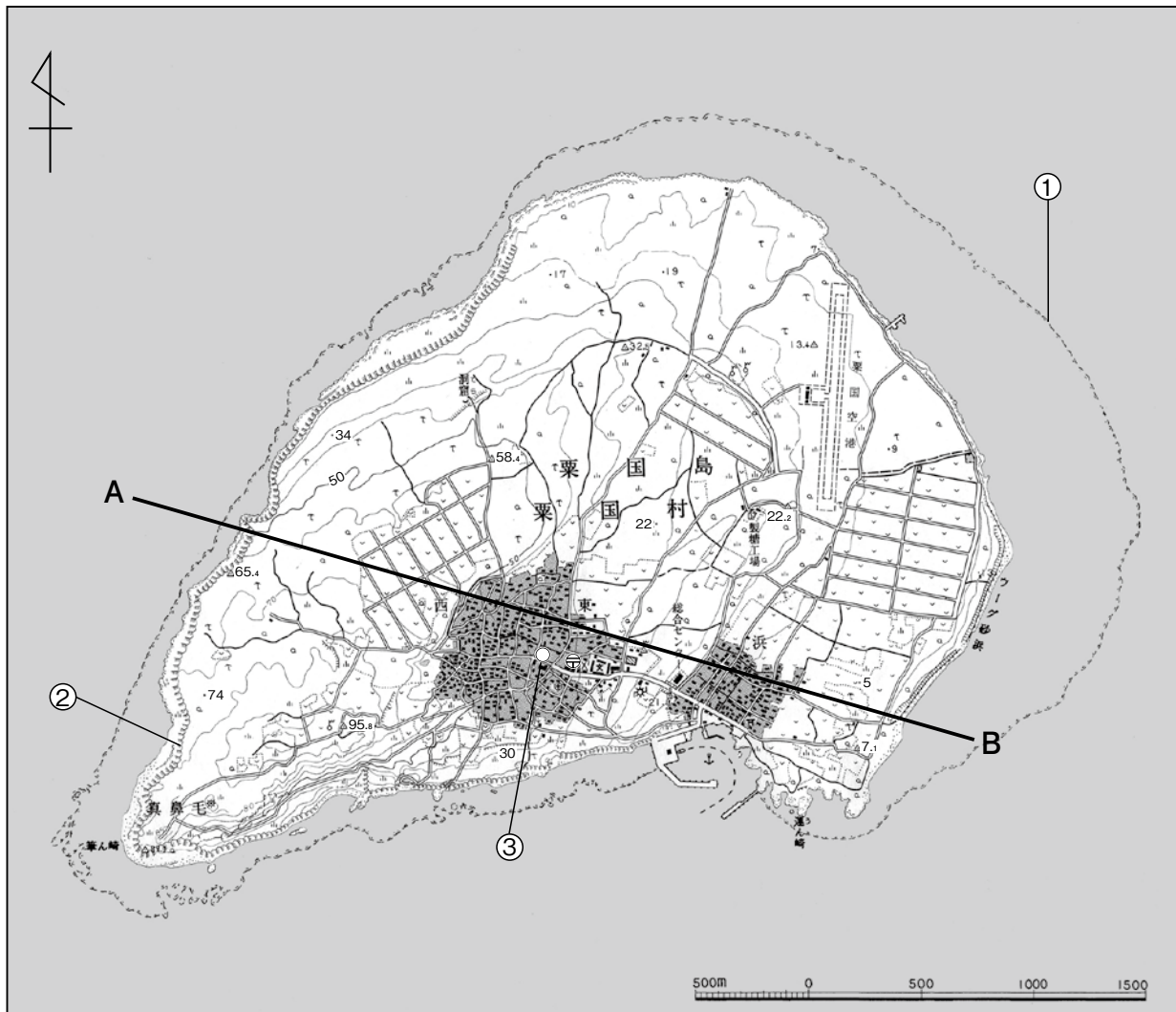


図2 シェールガスの国別可採埋蔵量 (2013 年) 資料：米エネルギー省調査

Ⅲ 「栗国島」の地形図を見て、下記の問いに答えなさい。



(平成 10 年 11 月 1 日発行)

- 問 1 2 万 5000 分の 1 の地形図において、10 m 及び 50 m ごとの等高線は何と呼ばれているか。
(各 2 点)
- 問 2 地形図にある①と②の地形は何か。その地形名を答えなさい。(各 2 点)
- 問 3 地形図にある③の記号は何か。その名称を答えなさい。(2 点)
- 問 4 栗国港から郵便局までのだいたいの直線距離を答えなさい。(3 点)
- 問 5 地形図にある東区と西区のある集落の地形環境と集落形態の特徴を答えなさい。(5 点)

問6 粟国島（粟国村）では、1980年の1,080人余の人口から、2018年現在では700人余の人口数となり、沖縄県で人口数の少ない村の一つとなっている。人口を大きく減らした要因を答えなさい。（5点）

問7 粟国島では、西区の西側と東区の東側付近では、段差のある地形がみられる。このような地形を何というのか、答えなさい。また、このような地形が形成された要因について答えなさい。（5点）

問8 粟国島の地形の特徴を知るために、A—Bの線上の等高線を読み取り、地形断面図を作成しなさい。（6点）